

土耕の作業軽減！イチゴの1条疎植栽培

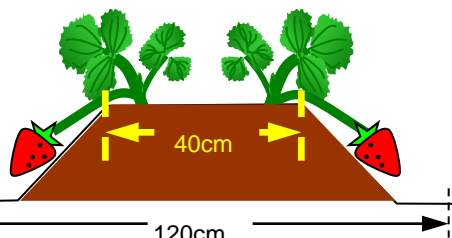
【背景・目的・成果】

イチゴの土耕促成栽培は、定植株数7,200株/10a、年間の労働時間は約1,650h/10aで、多くの苗と管理労力を必要とします。栽培管理の中で、育苗(399h/10a)、定植(48h/10a)、摘葉・摘果(94h/10a)などは、定植株数を減らせば、作業時間の短縮につながります。

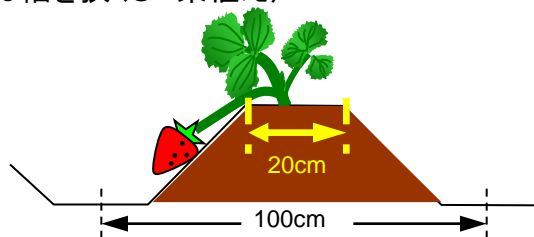
そこで、1条うねにすることで、定植株数を減らすと、収量は大きく減少させずに労働時間を短縮することが可能になりました。

■うねの形状を変更

〈慣行うね・2条植え〉



〈うね幅を狭くし1条植え〉



■定植方法

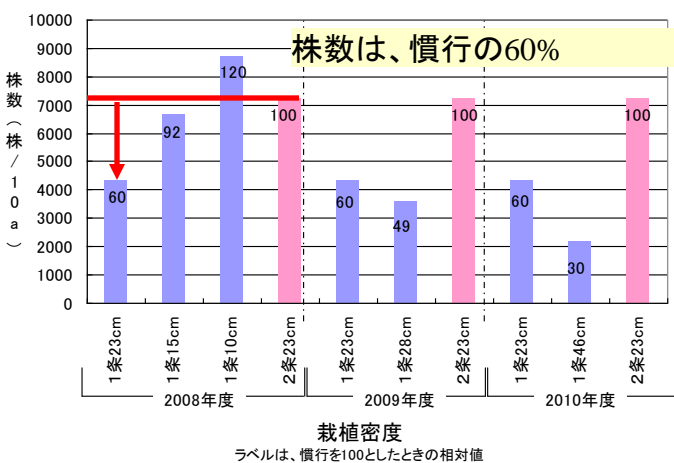
花房が同じ方向を向くように定植



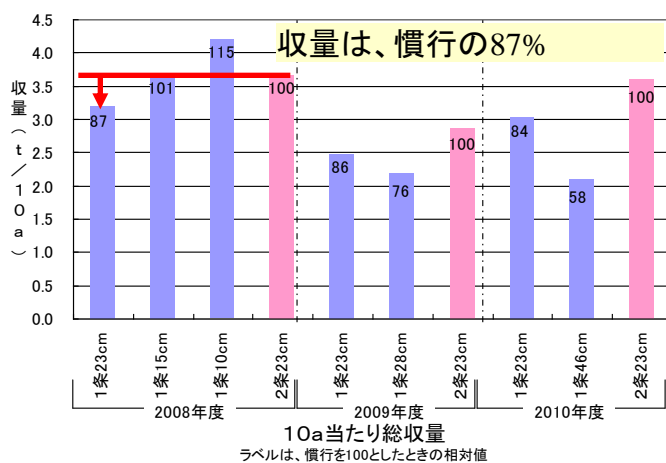
(反対側)



■定植株数：うね幅が狭くなるがうね数が増加し、定植株数は株間23cmで慣行の約60%に減少



■収量：1株収量は栽植密度が低いほど増加し、株間23cmの場合10a当たり収量は慣行の約85%



定植株数が減少して定植等管理作業が楽になり、収量はあまり減らない！！

【技術の活用】

- 今後、収量のさらなる増加を図るため、芽数管理や施肥管理の改良などを検討します。
- 基肥一発施肥法や、本ぽでの作業姿勢改善なども含めた総合的な労働軽減技術を開発します。